

# 「在宅障害者支援を」

シンポに家族など200人

福岡市

在宅で生活する重度の障害者などの支援に取り組み、市民で支援体制を強化する。市民で支援体制を強化する。市民で支援体制を強化する。

区であり、当事者家族や施設関係者など約200人が参加。市民で支援体制を強化する。市民で支援体制を強化する。



障害者の在宅生活の支援について意見を交わす参加者たち

には少なくとも約1700人の重症心身障害児・障害者が在宅で暮らしているが、介護者の負担が重く、一時預かり（短期入所）で済ませる施設や療養の吸引など医療的ケアができる人材を増やす重要性を訴えた。

パネル討論では、当事者家族や支援者ら5人が意見を交換。小園正利・東福岡特別支援学校前校長は、「学校現場で医療的ケアを行うと欠席が減るなどの効果がある。注意すべき事例の蓄積などが重要だ」と強調。

福岡市内の短期入所施設

の整備率が4割程度との指摘もあり、「短期入所をどの施設が行っているか周知してほしい」「泊まり込みでヘルパーなどを自宅に派遣するサービスができれば家族の負担が少なくなる」との意見が出た。

## 博多駅移転50周年 多彩にお祝い

JR博多駅（福岡市博多区）は12月1日、現在地移転50周年の記念セレモニーを行い、12月を感謝祭期間として、写真展など多彩なイベントを展開する。15日には記念シンポジウム「愛

来月1日セレモニー されて半世紀、これからこのまちで（JR九州、西日本新聞社など主催）をJR九州ホールで開催。参加者を募集している。

時と同じ出発式を再現する。午後9時55分発長崎行き「かもめ23号」に井手さんが号手を発する。博多口駅前広場のスチーシでは終日、有名人ティーストや地元のアイドルグループ、九州各地の太鼓楽団などの演奏がある。

記念セレモニーでは、開業時に博多駅長を務めていた井手千樹さん（81）が、当

写真展や地元アイドルグループ公演

15日にシンポ、参加者募集  
演劇の後、街の将来像論議

史を振り返る。2部では、大塚氏や山根久資・JR博多駅長などをパネリストに、駅とともに成長してきた街の将来像を論議する。参加無料で、定額は500円。希望者は12月5日（必着）までに、はがきに郵便番号と住所、氏名、年齢、電話番号、職業が所属団体名を記入し、〒810-0187（〒1住所不募）、西日本新聞社企画推進部「博多駅シンポジウム」係へ申し込む。回係092（71）5491（平日午前10時～午後6時）。